



オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構

平成26年度 第3回技術委員会資料

次年度アクションアイテム案

2015.03.26

オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構 事務局

前回の委員会にて設定されたテーマ

1. オープンデータガイド（活用編）の作成
 2. オープンデータガイド（提供編）のメンテナンス
 3. ツール集の作成
 4. 講習会用テキスト作成
 5. 国際標準化活動
-
- ○をつけたテーマについては
 - ▶ ワーキンググループを発足させて、作業を行う。
 - ▶ 委員会では、ワーキンググループごとに報告を行い、レビューする。
 - そうでないテーマについては
 - ▶ 事務局が素案を作成し、委員会にてレビューを行う。

1. オープンデータガイド（活用編）の作成

■ 想定するアウトプット

- ▶ web上にまとめた「オープンデータガイド（活用編）」
 - ◇できたものから随時公開する。必要であれば年度末に冊子化する。

■ 分担案

- ▶ WGに参加した社員・委員：実績や実践方法・教育手法を執筆
- ▶ 事務局：全体のとりまとめ

■ アクションアイテム案

1. シナリオ候補の洗い出し

- ◇課題を作成し、その解決に必要なオープンデータとその取得・解析・加工に必要な技術、ツールをまとめる。
 - ◆ WGに参加した社員・委員と事務局で分担して洗い出す。
- ◇洗い出した候補を事務局に集める。

2. シナリオ候補の分類・整理 → 目次案・テンプレートの作成

- ◇洗い出した候補を、利用するオープンデータの種類や取得・解析・加工に必要な技術に応じて事務局が整理する。
- ◇整理した候補を、技術委員会にかけて精査する。
- ◇精査の結果、不足している分野のシナリオがあれば、追加して収集する。

3. ガイドの原稿執筆

- ◇整理したシナリオごとに、利用するオープンデータの種類や取得・解析・加工に必要な技術、ツールを解説した記事を執筆する。
 - ◆ WGに参加した社員・委員と事務局で分担して執筆し、事務局がとりまとめる。はしがき、まとめ等の部分は、事務局が担当する。
 - ◆ ツールについては「3. ツール集の生成」と連動させる。（相互リンクを貼るなど）
- ◇取得・解析・加工技術に関しては、サンプルコードを付与する。
 - ◆ 重複する場合は、コードの言語を変えるなどして、なるべく重複しないようにする。

4. 精査・公開

- ◇執筆できた項目から順に技術委員会で精査し、順次公開する。（2回程度に分けて順次公開する）

2. オープンデータガイド（提供編）のメンテナンス

■ 想定するアウトプット

- ▶ 「オープンデータガイド（提供編）」の改訂版（冊子）

■ 分担案

- ▶ 事務局：修正案の作成
- ▶ 委員・社員：技術委員会でのレビュー

■ アクションアイテム案

1. 現状調査

- ◇事務局が下記作業を実施する。
- ◇「オープンデータガイド（提供編）」に記載されている技術項目に関する最新動向を調査する。
- ◇「オープンデータガイド（提供編）」に関連して公開されている文書等を調査する。
 - ◆「技術に関する最新動向を「オープンデータをはじめよう」手引き書（内閣官房IT戦略総合室）
 - ◆JLISによる調査

2. ガイドの修正箇所の洗い出し

- ◇現状調査の結果から、事務局が修正が必要な箇所を洗い出す。
- ◇その結果を修正計画としてまとめ、技術委員会にて確認する。

3. ガイドの修正

- ◇事務局が、洗い出した項目を加筆・修正する。

4. ガイドのレビュー・公開

- ◇修正箇所を技術委員会にてレビューし、公開する。

▶ 随時対応項目

- ◇新たな技術規格が策定されたなど、オープンデータガイド（提供編）に影響を及ぼす状況が発生した場合は、適宜調査し、反映させる。

3. ツール集の作成

■ 想定するアウトプット

- ▶ web上にまとめた「オープンデータ活用・提供ツール集」
 - ◇オープンデータの活用・提供に有用なツール群や、地方創生に寄与するツール群をまとめたもの。
 - ◇できたものから随時公開する。必要であれば年度末に冊子化する。

■ 分担案

- ▶ WGに参加した社員・委員：自社あるいは既知のツールについて執筆
- ▶ 事務局：全体のとりまとめ

■ アクションアイテム案

1. 既存ツール群の調査

- ◇事務局・委員・社員により、すでに公開されているツールと、その入手先を調査する。
 - ◆ オープンソースのツールだけでなく、製品も調査する。
 - ◆ 現場のニーズも調査する。
- ◇調査結果を事務局に集める。

2. 調査結果の整理 → 目次案の作成

- ◇事務局は、データ活用・データ提供・地方創生を軸に、調査したツールを分類する。
 - ◆ 活用編：データの収集／データの解析／地理空間情報処理ツール など
 - ◆ 提供編：データカタログ／メタデータ管理／データ形式変換 など
 - ◆ 地方創生編

- ◇分類結果を技術委員会にかけて精査する。
- ◇不足している項目があれば、追加で調査する。

3. 収集したツール群を説明する記事の執筆

- ◇ツールを利用するためのサンプルコードやサンプルデータを利用した適用例を含めて、記事を作成する。
 - ◆ 事務局・委員・社員により分担して執筆し、事務局がとりまとめる。はしがき、まとめ等の部分は、事務局が担当する。
 - ◆ 必要に応じて、「1. オープンデータガイド（活用編）の作成」と連動させる。（相互リンクを貼るなど）

4. 精査・公開

- ◇執筆できた項目から順に技術委員会で精査し、順次公開する。（2回程度に分けて順次公開する）

4. 講習会用テキスト作成

■ 想定するアウトプット

- ▶ オープンデータの提供ならびに利活用に関する技術的な講習を行うためのテキスト。

■ 分担案

- ▶ 事務局: テキスト案の作成
- ▶ 社員: 自社で実施しているテキストなどで、提供可能なものをご提供ください
- ▶ 社員・委員: 技術委員会でのレビュー

■ アクションアイテム

1. 講習項目の選定 → 目次案の作成

- ◇事務局は、集まったガイド（活用編）・ツール集の候補から、講習項目を選定する。
- ◇その設定結果を技術委員会にて協議し、講習テキストの目次を定める。

2. テキストの作成・レビュー

- ◇「1. ガイド（活用編）」「3. ツール集」の原稿執筆と平行して、事務局が作成する。
- ◇テキスト案を技術委員会にて協議し、精査する。

3. 試行とフィードバック

- ◇精査したテキストを利用して講習を試行し、その結果をフィードバックさせる。

5. 国際標準化活動

■ 活動ポリシ案

1. 国際標準化活動

- ◇VLED自体が標準化団体となり、会員等からの標準提案を募集し、VLEDの国内標準を策定する。
- ◇それを、VLED名で、VLEDが経費を負担して国際標準化団体に提案する。

2. 国際標準化支援活動

- ◇会員、有識者または他の組織が、オープンデータやビッグデータに関連する規格を国際標準化団体に提案することを、VLEDが資金的に支援する。
- ◇VLED自体は支援対象の審査を行う。標準策定を行わない。

3. 国内委員会に相当する活動

- ◇VLEDは、会員等関係者間の調整をはかる場（国際標準化活動の作戦本部）として機能する。

4. 国際交流活動

- ◇国内活動を紹介するなどプレゼンスを示す、あるいは人的交流を行うことを主目的とする。

■ 活動対象範囲

- ▶ オープンデータ
- ▶ ビッグデータ
- ▶ 地方創生

5. 国際標準化活動

■ アクションアイテム案

1. 提案項目候補の洗い出し（3～4ヶ月程度）

◇社員を含めて、標準化提案項目を洗い出す。

- ◆ 現在社員が行っている標準化活動項目や、標準化を予定している項目のうち、オープンデータやビッグデータに関連し、かつ複数社で対応することが望ましい項目を洗い出す。

◇これらの項目を事務局が収集し、候補を選別する。

◇技術委員会にて協議し、候補を確定する。

2. ワーキンググループの結成

◇提案項目候補それぞれについて、興味のある委員・社員により、ワーキンググループを結成する。

- ◆ 必要であれば、外部から国際標準化活動の経験者を招く。

◇ワーキンググループの参加者が協議し、提案対象とする国際標準化団体および検討グループを選定する。

3. 国際標準化団体の動向調査

◇提案内容に近い事項を検討している国際標準化団体やワーキンググループを調査する。

◇これは、次項に記す提案内容の検討と平行して進める必要がある。

4. 提案項目のドラフトと関連資料の作成

◇技術仕様の標準化を提案する場合は、結成したワーキンググループの中で、提案項目のドラフトを作成する。

- ◆ 提案項目は事務局を含めた複数の組織が持ち寄った内容から構成されているため、この時点で、項目を精査し、提案項目の範囲を確定させる。

- ◆ その範囲に基づいて、技術提案項目のドラフトを作成する。

◇提案項目の説得力を増すために、利用実績や採用実績をアピールするための資料を準備する。

- ◆ 実績が足りない場合は、VLEDの活動の中で、その技術項目を積極的に利用する。

↑
次年度の想定範囲

5. 国際標準化活動

■ アクションアイテム案

5. 国際標準化団体への提案

◇国際標準化団体が開催する会合やワークショップに出席し、選別した提案項目を発表する。このような活動を何回か繰り返すことにより賛同者を集め、対象の国際標準化団体の検討グループ内でのワークアイテムへの追加を提案する。

6. 検討グループ内での議論

◇ワークアイテムへの追加が承認されると、検討グループ内での議論が開始される。この議論に参加し、技術提案を繰り返し行うことにより、提案項目を精査していく。

想定スケジュール

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1. ガイド（活用編）			シナリオ 洗い出し ★WG	シナリオ 整理 ★WG	ガイド原稿執筆・公開 （第1回） ★WG				ガイド原稿執筆・公開 （第2回） ★WG			
2. ガイド（提供編）			現状調査	修正計画 作成		修正作業			レビューと フィードバック			
3. ツール集			ツール調査	調査結果 整理 ★WG	解説記事執筆・公開 （第1回） ★WG				解説記事執筆・公開 （第2回） ★WG			
4. 講習テキスト				講習項目 選定	講習項目テキスト作成・レビュー ※1. 3.と連動				試行とフィードバック			
5. 国際標準化活動			項目洗い出し				★WG		★WG			
技術委員会			★ 第1回 WG発足	★ 第2回 WG報告				★ 第3回 WG報告			★ 第4回 年間とりまとめ	

その他（プロモーション関連作業等）

■ 6月の総会までの実施項目案

1. 技術委員会のパンフレット
2. 年報
 - ▶ 今年度の成果をとりまとめ、社員や他の関連組織に配布する。

■ 次年度実施項目案

1. メールマガジンを発信
 - ◇オープンデータ・ビッグデータに関する技術的なイベント、書籍、会員からの報告などをまとめて、定期的に発信する。
 - ◇配布対象は会員・社員およびVLEDが開催するイベントに出席した希望者
2. 他の委員会への連携案
 - ◇技術委員会の成果を、利活用・普及委員会で普及させる。
 - ◇他の委員会からの技術委員会への要望を、フィードバックする。

